

令和 6 年

さとうきび生産振興計画

令和 6 年 2 月

沖 縄 県

目 次

1	基本方針	1
2	重点施策	2
3	地域別振興方向	4
4	推進体制	6
5	作付面積及び生産数量に関する計画	
	(1) 田畑別生産計画	10
	(2) 作型別生産計画	11
	(3) 作型別及び品種別生産計画	12
6	優良種苗の生産及び普及に関する計画	
	(1) 原苗ほ・採種ほ設置計画	17
7	土地改良その他生産基盤の整備に関する計画	18
8	栽培技術の改善及び農業経営の合理化に関する計画	
	(1) 農業経営の合理化に関する計画	19
	(2) 栽培技術の普及・指導	20
	(3) 農業改良普及指導方針	22
	(4) 試験研究計画	26
9	集荷及び販売に関する計画	
	(1) 地域別さとうきび販売数量	32
	(2) 製造事業者別・工場別さとうきび集荷計画数量	33

1 基本方針

さとうきびは、本県の基幹作物として、農家経済・地域経済を支えるとともに、関連産業への経済波及効果が大きく、特に離島地域における雇用機会を創出し、国民の食生活に欠かせない砂糖の原料として重要な役割を果たしている。

さとうきびを巡る環境は、台風、干ばつ等の気象災害、生産農家の高齢化、担い手不足、機械化の遅れ等生産環境の厳しさに加え、国内の消費低迷や内外価格差等から生産コストの低減、品質の向上、製糖企業の合理化等が強く求められている。

このような状況のなか、さとうきびの生産振興を図るため、さとうきび増産計画、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画の他、みどりの食料システム戦略等の諸方針との整合性に留意し、施策を円滑に推進する。生産基盤の整備については、かんがい施設、防風・防潮林等の整備を行う。また、担い手への農地の利用集積、機械化一貫体系、土づくり、病害虫の防除等を総合的に推進し、優良品種の育成・普及、安定多収栽培技術の確立を図る。さらに、緑肥栽培、グリーンベルトの植栽等による耕土流出防止対策をはじめ、農業由来の環境負荷低減に係る取組を推進する。

担い手の育成・確保については、地域の話合いにより策定された「人・農地プラン（地域計画）」の実施に向け、農地中間管理事業の活用をはじめ、機構集積協力金、農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）、スーパーL資金の無利子措置等の関連施策を活用しつつ、認定農業者等の中心経営体、農業法人、受託組織等の育成を推進する。

また、さとうきび増産基金事業（セーフティーネット基金）等を活用し、さとうきびの生産性を安定させ、市町村等関係機関と連携のもと、農業共済制度の普及・啓発、加入促進を図る。さらに、収入保険制度についても、引き続き周知を図るとともに、加入促進に努める。

分蜜糖企業については、関係機関等の連携を強化し、原料の安定供給による操業率向上、集荷製造経費の縮減、製糖設備の整備等を促進する。

含蜜糖企業については、製造施設の整備、高付加価値製品の開発、新規販路の開拓、製造・流通コストの低減等、合理化に関する経営指導や経営体質の強化に取り組む。併せて、黒糖の品質向上に向けた取組等を検討していく。

2 重点施策

(1) 生産基盤の整備

生産基盤の整備については、さとうきびの生産性向上、干ばつ対策、農業機械の作業効率の向上等を図るうえで重要であることから、ほ場整備、農道整備、かんがい施設整備等を推進する。

(2) さとうきび作担い手の育成と農地の利用集積

地域の実情に即した担い手を育成するため、モデルとなる経営の調査等を行うとともに、沖縄県担い手育成総合支援協議会、さとうきび生産法人連絡協議会、関係機関・団体と連携し、認定農業者、認定新規就農者、農業法人、農作業受委託組織等に対して効果的・効率的な経営改善指導を実施し、農業経営管理能力の向上を推進する。

また、これら担い手への農地の利用集積を図るため、市町村、農業委員会、農業振興公社等関係機関と連携し「人・農地プラン（地域計画）」の推進、農地中間管理事業による農地集積機能を活用するとともに、耕作放棄地解消事業、機構集積協力金等の関連施策を活用し、担い手への農地の利用集積を推進する。

(3) 機械化一貫作業体系の推進

ハーベスタ、トラクタ、植付機、株出管理機等の導入による収穫・植付・肥培管理・株出管理作業の省力化を図る。また、スマート農業の確立に向け、研究機関、普及組織、生産現場等の連携の下、生産性や収益性の検討を図る。農作業受託組織の育成等を促進し、地域の実情に即した機械化一貫作業体系の確立・普及を推進する。

(4) 優良品種の育成、優良種苗の増殖・普及

さとうきびの生産性向上を図るため、株出萌芽性、早期高糖性、機械収穫適応性等、地域に適応した安定多収品種を育成するとともに、種苗管理センター沖縄農場と連携し、原種ほ及び採種ほを設置し、地域要望の多い無病健全な優良品種の増殖・普及を推進する。

(5) 土づくり及び株出栽培の単収向上・適期肥培管理作業の推進

土づくりについては、有機質肥料の施用、深耕、客土、土壌改良剤の施用等を実施するとともに、みどりの食料システム戦略の一環として環境負荷低減に向け、製糖企業、畜産農家との連携のもと、トラッシュ、バガス、フィルターケーキ、畜産排せつ物等の畑地への還元を図るほか、緑肥栽培による地力増進を推進する。また、適期肥培管理作業については、さとうきびの単収向上を図るうえで最も重要であることから、栽培講習会の開催、優良事例の紹介等を行うとともに、計画的な種苗確保、適期植付・欠株への補植、適期肥培管理、早期株出管理の徹底を推進する。

(6) 病虫害等防除対策

病虫害防除については、市町村における防除組織の育成を行うとともに、雑草防除の徹底及び発生予察情報により効果的な防除を推進することとする。オキナ

ワカンシャクシコメツキ、サキシマカンシャクシコメツキ、メイチュウ類の防除については、薬剤による幼虫防除に併せ、雑草管理等による総合的防除を推進するとともに、アオドウガネについては、誘殺灯による成虫防除と耕種的防除を組み合わせた総合的な防除を推進する。

また、カワリバトウダイ等の難防除雑草についても、関係機関と連携し、防除対策に努める。

(7) 防風・防潮林の普及・啓発

本県は台風常襲地帯であるため、作物への台風被害の軽減が重要であることから、沖縄県防災農業推進会議において、11月第4木曜日を「防風林の日」と定め、講演会や植樹大会等の関連行事を開催し、防風・防潮林の普及・啓発を実施する。

(8) 農業保険加入の促進

台風、干ばつ等の気象災害が多発する本県において、さとうきび生産農家の経営安定を図るため、農業共済団体、市町村等関係機関と連携し、農業共済制度の普及・啓発、加入促進を図る。さらに、収入保険制度についても、引き続き周知を図るとともに、加入促進に努める。

(9) さとうきび増産基金事業（セーフティネット基金）等の活用

さとうきびの生産性の向上、製糖企業の製造コスト低減等を図るため、生産者をはじめ、市町村、JA、製糖企業等の関係機関が一体となり、さとうきびの生産回復・増産を推進する。

3 地域別振興方向

(1) 北部地域

北部地域においては、生産農家の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増大等により、栽培面積、単収とも減少傾向にある。

このため、国営羽地大川ダム等の活用による畑地かんがい施設整備、防風・防潮林の整備等生産基盤の整備をはじめ、耕作放棄地の解消、機械化による省力化・低コスト化を図るとともに、耕畜連携等による有機物の畑地への還元、農業法人や受託組織の育成を推進する。併せて、農業保険の普及・啓発、加入を促進し生産農家の経営安定を図る。

病虫害防除については、雑草防除の徹底、薬剤による適期防除等によるメイチュウ類や土壌害虫等の防除を推進するとともに、イノシシ等の鳥獣害防止対策に努める。

北部離島地域においては、干ばつ等の気象災害を軽減するため、国営地下ダム等の活用による畑地かんがい施設整備をはじめ、土づくり、品種構成の適正化を図っていく。また、夏植の推進による気象災害リスクの軽減及び労働力の分散、単収の確保を図る。さらに、生産農家の高齢化等による労働力不足に対処するため、地域に適した機械化体系の構築を図る。

(2) 中南部地域

中南部地域においては、都市部に近く、雇用機会が比較的多く、他産業への労働力の流出による耕作放棄地の増加、収益性の高い園芸作物への転換、農地の転用等により、さとうきび栽培面積が減少している。

このため、防風・防潮林の整備等生産基盤の整備をはじめ、集中脱葉施設等を活用した無脱葉原料の搬入、地域に即した機械化による省力化・低コスト化の推進、担い手への農地の利用集積、農業法人、受託組織等の育成を推進する。

また、野菜・かんしょ等との輪作体系の確立、適期株出管理・新植への更新を促し、耕畜連携等による有機物の畑地への還元によりさとうきび単収向上を図るとともに、農業保険の普及・啓発、加入を促進し生産農家の経営安定を図る。

島尻マージ地域においては、干ばつ被害を受けやすいため、単収及び品質の向上に向け、国営本島南部地下ダム等を活用した畑地かんがい施設整備、耕土深の確保、有機物の施用、緑肥作物の栽培等による土づくりを推進する。

病虫害防除については、雑草防除の徹底、薬剤による適期防除等によるメイチュウ類や土壌害虫等の防除を推進する。

南部離島地域においては、干ばつ等の気象災害を軽減するため、県営カンジダム等の活用による畑地かんがい施設整備をはじめ、防風・防潮林の整備、土づくり、品種構成の適正化を図るとともに、地域に即したハーベスタ、植付機、株出管理機等を導入し、機械化による労働生産性の向上、農家所得の向上に努める。

(3) 宮古地域

宮古地域においては、河川がほとんどなく、また、島尻マージ土壌であることから、干ばつ被害を受けやすいため、地下ダムを水源とする畑地かんがい施設整備、防風・防潮林の整備等生産基盤の整備を推進する。

生産農家の高齢化、冬春季の園芸作物等との労働力競合に対処するため、ハーベスタ等の機械化一貫作業体系による省力化を図るとともに、担い手への農地の利用集積、農業法人、受託組織等の育成を推進する。

また、黒穂病のまん延防止や、品種構成の適正化のため、奨励品種の増殖・普及を図り、バガス・トラッシュ等の畑地還元、堆肥の投入や緑肥作物の栽培等による土づくりを推進するとともに、適期株出管理・新植への更新を促し、単収及び品質の向上を図る。併せて、農業保険の普及・啓発、加入を促進し生産農家の経営安定を図る。

病虫害防除については、地下水の水質保全を考慮し、農薬の使用量を抑制し、サキシマカンシャクシコメツキ、アオドウガネ（幼虫）等の土壤害虫及びメイチュウ類については薬剤、イネ科雑草防除等総合的防除を推進するとともに、アオドウガネ（成虫）については可動式誘殺灯による一斉防除を推進する。

また、カワリバトウダイ等難防除雑草や、イノシシ等の鳥獣害防止の対策に努める。

多良間村においては、黒糖の品質向上に向け、引き続き品質保持技術の検証を行う。また、水源が乏しく干ばつ被害を受けやすいことから、ため池周辺の集水路清掃による貯水率の上昇を図り水源を確保する他、干ばつ時にはかん水車を稼働させる等の取組を実施していく。

（４）八重山地域

八重山地域においては、肉用牛等を中心に多様な農業が展開され、さとうきびについては、生産農家の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増大等により、厳しい生産環境にある。

このため、かんがい施設整備、防風・防潮林整備等の生産基盤の整備をはじめ、集中脱葉施設等を活用した無脱葉原料の搬入、ハーベスタ等機械化一貫作業体系による省力化・低コスト化の推進、耕作放棄地の解消、担い手への農地の利用集積、農業法人、受託組織等の育成を推進する。

また、葉たばこや野菜、かんしょ等との輪作体系の確立、肉用牛との複合化、耕畜連携による有機物の畑地への還元、バガス・トラッシュの投入、緑肥作物の栽培等による土づくりを推進するとともに、適期株出管理・新植への更新を促し、さとうきび単収向上を図る。併せて、農業保険の普及・啓発、加入を促進し生産農家の経営安定を図る。

さらに、生産性の向上及び気象災害等リスクの軽減を図るため、夏植を推進するとともに、収穫面積の確保を図るため、地域の実情に合わせた作型を推進する。

併せて、近年大きな問題となっているイノシシ等の鳥獣害防止対策として、定期的な捕獲や侵入防止柵の設置等に努めるほか、病虫害の総合的防除対策、有機物施用、優良種苗の増殖・普及、緑肥作物の栽培等による耕土流出防止対策を推進する。

八重山離島地域においては、干ばつ等の気象災害を軽減するため、水資源の確保を図る。また、黒糖の品質向上に向けた取組等を検討するとともに、土づくり、地域に即した品種構成と作型の適正化を推進する。さらに、生産農家の高齢化等による労働力不足に対処するため、地域に適した機械化体系の構築を図る。

4 推進体制

(1) 県

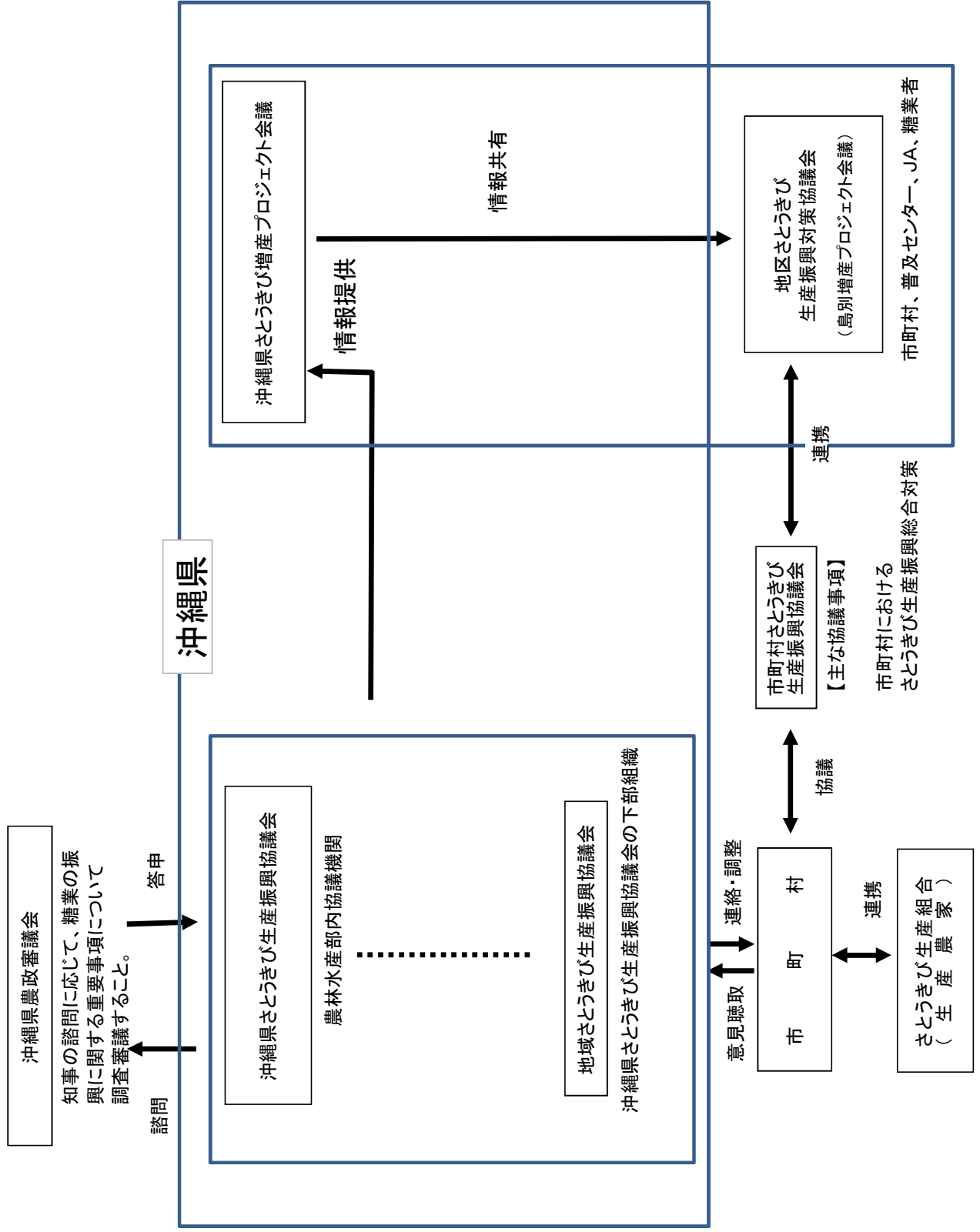
本計画の目標を達成するため、沖縄県農政審議会の答申、沖縄県さとうきび生産振興協議会の意見を踏まえ、公益社団法人沖縄県糖業振興協会、市町村、農業団体、製糖企業等関係機関と連携し、さとうきび生産振興に関する諸施策を総合的に推進する。

具体的な取り組みに当たっては、沖縄県さとうきび増産プロジェクト会議を通して、島毎に各種施策を推進する。

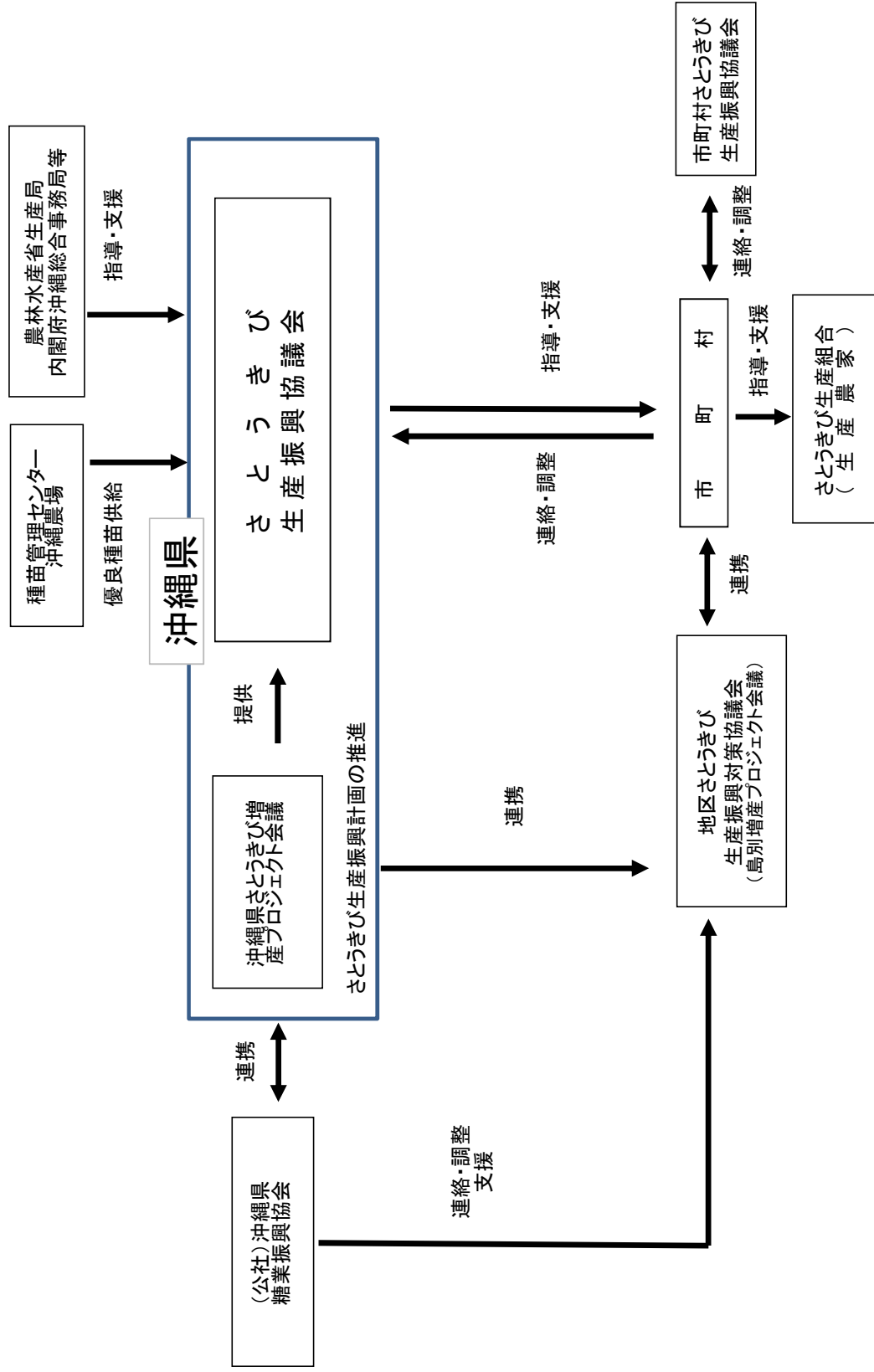
(2) 地域

各地域において、本計画の目標を達成するため、生産者をはじめ、農業団体、製糖企業、行政機関、関係団体等が一体となった島別のさとうきび増産プロジェクト会議を通して、さとうきびの生産拡大、生産コストの低減及び品質向上等の各種施策の推進に努める。

【生産振興計画策定体制図】



【実施体制図】



(3) 推進計画

実施主体	時期	推進内容	対象
県、市町村、農協	令和6年 2月	令和6年さとうきび生産振興計画の審議	県農政審議会（専門部会）
市町村、農協	1～3月	株出ほ場の適期管理及び春植の適期植付推進	生産者、関係機関団体等
市町村、農協	令和6/7年 4～3月	令和6年度さとうきび生産振興計画に基づく具体的推進	〃
糖業振興協会	4月	さとうきび競作会（「さとうきびの日」）	〃
市町村、農協	4～6月	病虫害防除、適期植え付け等肥培管理の推進 （さとうきび栽培技術の講習会等）	〃
黒砂糖工業会	5月	黒糖の日	生産者、消費者、関係機関団体等
市町村、農協	8月	夏植適期植付の推進 （さとうきび栽培技術の講習会、推進大会等の開催）	生産者、関係機関団体等
市町村、農協、 工場	5～8月	さとうきび増産大会開催	〃
市町村、農協	10月	夏植適期肥培管理等の推進	〃
県	11月	防風・防潮林の普及啓発（「防風林の日」）	〃
県、市町村、 製糖企業	12月	さとうきび収穫機械オペレーター研修の開催 製糖開始	オペレーター 生産農家、製糖工場他

5 作付面積及び生産数量に関する計画

(1) 田畑別生産計画

地域名	畑		田		合計		
	栽培面積 ha	収穫面積 ha	栽培面積 ha	収穫面積 ha	栽培面積 ha	収穫面積 ha	ha当たり 収量 t
本島北部	912	865	-	-	912	865	45
北部離島	773	631	-	-	773	631	54
北部小計	1,685	1,496	-	-	1,685	1,496	48
中部小計	575	493	-	-	575	493	54
本島南部	1,402	1,304	-	-	1,402	1,304	62
南部離島	3,096	2,793	-	-	3,096	2,793	61
南部小計	4,498	4,097	-	-	4,498	4,097	62
沖縄計	6,757	6,086	-	-	6,757	6,086	58
宮古本島	6,002	4,603	-	-	6,002	4,603	59
宮古離島	2,201	1,478	-	-	2,201	1,478	62
宮古小計	8,202	6,081	-	-	8,202	6,081	60
八重山本島	1,557	1,146	318	299	1,875	1,445	64
八重山離島	866	563	-	-	866	563	56
八重山小計	2,423	1,709	318	299	2,741	2,008	61
合計 (割合%)	17,382 (98.2)	13,876 (97.9)	318 (1.8)	299 (2.1)	17,700 (100.0)	14,175 (100.0)	59

※ 生産量については、100トン未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。

※ 収穫面積については、1ヘクタール未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。

※ 表中の「-」は、該当がなかったことを示す。

(2) 作型別生産計画

地域名	夏		植		春		植		株		出		合		計	新植 夏面積
	收穫 面積	ha 当たり 収量	生産量	ha 当たり 収量	收穫 面積	ha 当たり 収量	生産量	ha 当たり 収量	收穫 面積	ha 当たり 収量	生産量	ha 当たり 収量	收穫 面積	ha 当たり 収量		
本島北部	45	58	2,566	43	143	43	6,071	44	678	44	30,051	45	865	45	38,700	47
北部離島	143	65	9,253	47	75	47	3,480	51	413	51	21,124	54	631	54	33,900	142
北部小計	188	63	11,820	44	218	44	9,551	47	1,091	47	51,175	48	1,496	48	72,500	188
中部小計	83	63	5,183	52	52	52	2,727	52	359	52	18,724	54	493	54	26,600	81
南部本島	105	79	8,319	55	168	55	9,225	62	1,031	62	63,712	62	1,304	62	81,300	98
南部離島	267	80	21,321	60	390	60	23,571	59	2,136	59	126,292	61	2,793	61	171,200	303
南部小計	372	80	29,640	59	558	59	32,796	60	3,166	60	190,003	62	4,097	62	252,400	401
沖繩計	642	73	46,643	54	828	54	45,073	56	4,616	56	259,902	58	6,086	58	351,600	671
宮古本島	1,178	77	90,587	50	297	50	14,862	52	3,129	52	164,279	59	4,603	59	269,700	1,398
宮古離島	584	80	46,972	46	22	46	998	51	872	51	44,181	62	1,478	62	92,200	723
宮古小計	1,761	78	137,559	50	318	50	15,859	52	4,001	52	208,459	60	6,081	60	361,900	2,121
八重山本島	575	77	44,430	57	180	57	10,211	54	690	54	37,205	64	1,445	64	91,800	430
八重山離島	297	64	19,108	48	30	48	1,416	45	237	45	10,748	56	563	56	31,300	303
八重山小計	872	73	63,538	55	210	55	11,627	52	927	52	47,952	61	2,008	61	123,100	733
合計 (割合%)	3,275 (23.1)	76	247,700 (29.6)	54	1,356 (9.6)	54	72,600 (8.7)	54	9,545 (67.3)	54	516,300 (61.7)	59	14,175 (100.0)	59	836,600 (100.0)	3,525

※ 生産量については、100トン未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。

※ 收穫面積については、1ヘクタール未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 作型別及び品種別生産計画

地域別 (合計)

地域名	合 計															計				
	F 161	Ni 9	NiF 8	Ni 15	Ni 17	宮古 1号	NiTn 20	Ni 21	Ni 22	NiN 24	NiH 25	Ni 26	Ni 27	Ni 28	Ni 29		KY 99-176	RK 97-14	RK 03-3010	その他
北部本島	-	25	141	7	11	2	20	8	55	2	21	32	104	129	193	2	4	-	110	865
北部離島	-	-	3	23	16	-	15	7	102	-	62	-	149	29	151	3	15	0	57	631
北部小計	-	25	143	29	28	2	35	15	157	2	83	32	253	158	344	5	19	0	167	1,496
中部小計	0	13	39	26	4	5	2	18	17	4	45	11	66	38	26	0	17	0	162	493
南部本島	-	8	143	6	7	2	5	176	27	3	5	7	512	38	56	0	49	5	256	1,304
南部離島	5	-	1	9	0	-	3	138	85	-	9	135	1,179	142	341	117	347	0	281	2,793
南部小計	5	8	145	15	8	2	7	314	112	3	14	142	1,692	180	397	118	396	5	537	4,097
沖繩計	5	45	327	70	39	8	45	346	286	9	142	185	2,011	376	767	123	432	5	866	6,086
宮古本島	-	-	18	40	8	-	1	235	175	24	297	5	2,939	40	22	37	276	-	489	4,603
宮古離島	-	-	3	13	2	-	-	59	97	4	28	0	1,084	23	1	8	40	-	117	1,478
宮古計	-	-	21	53	10	-	1	294	271	28	325	5	4,023	63	22	45	316	-	605	6,081
八重山本島	-	-	21	-	-	-	-	26	332	3	304	-	646	5	-	27	47	-	35	1,445
八重山離島	-	-	69	111	-	-	-	12	7	-	32	35	202	-	-	25	40	9	22	563
八重山計	-	-	90	111	-	-	-	37	338	3	335	35	848	5	-	52	87	9	57	2,008
合 計	5 (0.0)	45 (0.3)	438 (3.1)	233 (1.6)	49 (0.3)	8 (0.1)	45 (0.3)	677 (4.8)	896 (6.3)	40 (0.3)	803 (5.7)	224 (1.6)	6,882 (48.6)	443 (3.1)	790 (5.6)	220 (1.6)	834 (5.9)	14 (0.1)	1,528 (10.8)	14,175 (100.0)

(3) 作型別及び品種別生産計画

地域別 (夏植)

地域名	夏 植																計			
	F 161	Ni 9	NiF 8	Ni 15	Ni 17	宮古 1号	NiTn 20	Ni 21	Ni 22	NiN 24	NiH 25	Ni 26	Ni 27	Ni 28	Ni 29	KY 99-176		RK 97-14	RK 03-3010	その他
北部本島	-	1	7	-	-	0	0	0	1	-	0	1	2	9	18	0	-	-	3	45
北部離島	-	-	-	7	2	-	3	1	42	-	12	-	41	4	20	2	2	0	9	143
北部小計	-	1	7	7	2	0	3	1	44	-	12	1	43	13	38	2	2	0	12	188
中部小計	-	3	3	7	0	2	0	3	0	0	9	2	13	8	4	0	1	-	27	83
南部本島	-	-	20	-	0	-	-	12	2	-	0	-	57	2	4	-	5	-	3	105
南部離島	-	-	-	3	-	-	-	21	3	-	-	4	133	-	75	14	7	0	9	267
南部小計	-	-	20	3	0	-	-	33	4	-	0	4	190	2	78	14	11	0	12	372
沖繩計	-	4	30	16	2	3	3	36	48	0	21	7	246	23	120	16	14	0	51	642
宮古本島	-	-	5	10	2	-	1	68	34	6	83	1	762	14	8	12	65	-	107	1,178
宮古離島	-	-	1	6	1	-	-	21	55	2	13	0	411	15	0	3	22	-	34	584
宮古計	-	-	6	16	3	-	1	88	88	8	96	1	1,173	29	9	16	88	-	141	1,761
八重山本島	-	-	10	-	-	-	-	9	157	1	128	-	228	5	-	17	12	-	10	575
八重山離島	-	-	38	52	-	-	-	5	2	-	11	18	115	-	-	15	21	4	15	297
八重山計	-	-	48	52	-	-	-	13	159	1	139	18	343	5	-	32	32	4	25	872
合 計	(0.0)	4 (0.1)	84 (2.6)	84 (2.6)	5 (0.1)	3 (0)	4 (0)	138 (4)	295 (9)	9 (0)	256 (8)	27 (1)	1,762 (54)	56 (2)	129 (4)	64 (2)	134 (4)	5 (0)	217 (6.6)	3,275 (100.0)

(3) 作型別及び品種別生産計画

地域別 (春植)

地域名	春 植																計			
	F 161	Ni 9	NiF 8	Ni 15	Ni 17	宮古 1号	NiTn 20	Ni 21	Ni 22	NiN 24	NiH 25	Ni 26	Ni 27	Ni 28	Ni 29	KY 99-176		RK 97-14	RK 03-3010	その他
北部本島	-	3	24	-	1	0	1	1	4	1	3	5	24	27	37	1	1	-	10	143
北部離島	-	-	-	1	-	-	-	0	9	-	12	-	19	1	18	-	3	-	11	75
北部小計	-	3	24	1	1	0	1	1	13	1	15	5	43	28	56	1	4	-	20	218
中部小計	-	0	4	5	0	-	-	1	0	1	4	2	9	5	5	-	4	-	13	52
南部本島	-	-	34	0	-	-	-	40	3	-	-	-	47	5	18	-	15	-	6	168
南部離島	1	-	-	-	-	-	-	22	2	-	-	14	171	8	70	19	55	-	30	390
南部小計	1	-	34	0	-	-	-	62	6	-	-	14	218	13	87	19	69	-	36	558
沖繩計	1	3	62	6	1	0	1	64	19	2	19	21	271	46	148	20	77	-	69	828
宮古本島	-	-	1	4	0	-	0	18	8	1	27	0	171	4	2	2	21	-	37	297
宮古離島	-	-	0	-	-	-	-	1	2	1	3	-	11	-	-	0	2	-	1	22
宮古計	-	-	1	4	0	-	0	19	10	1	29	0	182	4	2	2	23	-	39	318
八重山本島	-	-	-	-	-	-	-	3	22	-	45	-	98	-	-	4	6	-	2	180
八重山離島	-	-	6	1	-	-	-	3	2	-	0	3	5	-	-	3	5	0	1	30
八重山計	-	-	6	1	-	-	-	5	24	-	45	3	103	-	-	7	11	0	3	210
合 計	1 (0.0)	3 (0.2)	69 (5.1)	11 (0.8)	2 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.1)	88 (6.5)	53 (3.9)	3 (0.2)	94 (6.9)	25 (1.8)	556 (41.0)	50 (3.7)	150 (11.1)	29 (2.2)	111 (8.2)	0 (0.0)	110 (8.1)	1,356 (100.0)

(3) 作型別及び品種別生産計画

地域別 (株出)

地域名	株 出																計			
	F 161	Ni 9	NiF 8	Ni 15	Ni 17	宮古 1号	Ni:Tn 20	Ni 21	Ni 22	Ni:n 24	NiH 25	Ni 26	Ni 27	Ni 28	Ni 29	KY 99-176		RK 97-14	RK 03-3010	その他
北部本島	-	21	110	7	10	1	19	7	50	1	18	25	77	93	137	1	3	-	98	678
北部離島	-	-	3	15	15	-	12	6	51	-	38	-	89	24	113	1	10	-	37	413
北部小計	-	21	113	22	25	1	31	13	100	1	56	25	166	117	250	2	13	-	135	1,091
中部小計	0	10	32	14	3	3	2	14	17	3	32	7	44	25	18	0	12	0	122	359
南部本島	-	8	89	6	7	2	5	123	22	3	5	7	408	31	35	0	29	5	247	1,031
南部離島	5	-	1	6	0	-	3	96	80	-	9	117	876	134	196	84	286	-	242	2,136
南部小計	5	8	91	12	7	2	7	219	102	3	14	124	1,284	165	231	85	315	5	489	3,166
沖繩計	5	38	236	47	36	5	41	246	219	7	102	156	1,494	307	499	87	340	5	746	4,616
宮古本島	-	-	12	25	6	-	-	149	133	17	188	3	2,006	22	11	23	190	-	344	3,129
宮古離島	-	-	1	8	1	-	-	38	40	1	12	0	662	8	1	4	15	-	81	872
宮古計	-	-	14	33	7	-	-	186	173	18	200	3	2,668	30	12	27	205	-	425	4,001
八重山本島	-	-	10	-	-	-	-	14	152	3	131	-	320	-	-	6	29	-	23	690
八重山離島	-	-	25	58	-	-	-	4	3	-	20	13	82	-	-	7	14	4	6	237
八重山計	-	-	36	58	-	-	-	19	156	3	151	13	402	-	-	13	43	4	29	927
合 計	5 (0.0)	38 (0.4)	285 (3.0)	138 (1.4)	43 (0.4)	5 (0.1)	41 (0.4)	451 (4.7)	547 (5.7)	29 (0.3)	453 (4.7)	173 (1.8)	4,565 (47.8)	337 (3.5)	511 (5.4)	127 (1.3)	588 (6.2)	9 (0.1)	1,201 (12.6)	9,545 (100.0)

(3) 作型別及び品種別生産計画

地域別(新植夏植)

地域名	新植夏植															計				
	F 161	Ni 9	NiF 8	Ni 15	Ni 17	宮古 1号	NiTn 20	Ni 21	Ni 22	NiN 24	NiH 25	Ni 26	Ni 27	Ni 28	Ni 29		KY 99-176	RK 97-14	RK 03-3010	その他
北部本島	-	-	8	-	-	-	-	-	4	0	0	-	6	7	20	-	1	-	-	47
北部離島	-	-	-	2	2	-	1	3	47	-	4	-	33	4	15	2	2	-	26	142
北部小計	-	-	8	2	2	-	1	3	51	0	5	-	39	11	36	2	3	-	26	188
中部小計	-	3	3	7	0	2	0	3	0	0	9	2	13	8	4	0	1	-	27	81
南部本島	-	-	15	-	0	-	-	12	3	1	1	-	47	4	6	-	3	-	7	98
南部離島	-	-	-	5	-	-	-	39	15	-	-	10	111	6	75	19	17	5	2	303
南部小計	-	-	15	5	0	-	-	51	18	1	1	10	158	10	81	19	20	5	9	401
沖繩計	-	3	27	14	2	2	1	56	69	1	14	12	210	29	120	20	23	5	61	671
宮古本島	-	-	5	10	2	-	1	80	37	6	93	1	880	14	8	12	92	-	159	1,398
宮古離島	-	-	1	12	1	-	-	34	60	2	13	0	497	25	0	2	22	-	53	723
宮古計	-	-	6	22	3	-	1	114	96	8	106	1	1,377	39	9	15	115	-	212	2,121
八重山本島	-	-	8	-	-	-	-	6	117	0	95	-	170	3	-	13	9	-	7	430
八重山離島	-	-	32	46	-	-	-	5	2	10	16	17	108	-	-	18	16	10	22	303
八重山計	-	-	40	46	-	-	-	11	119	11	112	17	278	3	-	31	25	10	29	733
合計	(0.0)	3 (0.1)	72 (2.1)	82 (2.3)	5 (0.1)	2 (0.1)	2 (0.1)	181 (5.1)	285 (8.1)	20 (0.6)	232 (6.6)	30 (0.8)	1,865 (52.9)	71 (2.0)	129 (3.6)	66 (1.9)	163 (4.6)	15 (0.4)	302 (8.6)	3,525 (100.0)

7 土地改良その他生産基盤の整備に関する計画

事業名	工種区分及び事業量											事業費 千円
	明渠排水 m	暗渠排水 ha	客土 ha	農道※ m	区画整理		かんがい施設 ha	防風施設		その他 ha		
					防風林 m	堆肥投入量 t		防風林 m	保安林 ha			
1. 農地整備事業	-	-	50	-	175	537	21	-	-	-	ha	6,263,000
2. 水利施設整備事業	-	-	-	-	7	-	108	-	-	-	-	2,551,000
3. 国営かんがい排水事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	908	5,399,142
4. 農山漁村活性化対策整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5. 農業基盤整備促進事業	-	-	-	-	23	-	104	-	-	-	-	2,777,000
6. 県営通作条件整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7. 県営農地保全整備事業	-	-	-	-	-	-	-	1,110	-	-	-	35,000
8. 団体営農地保全整備事業	-	-	-	-	-	-	-	138	-	-	-	4,300
9. 農村集落基盤再編・整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10. 治山・防災林整備事業（保育除く）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	277,825
11. 多面的機能支払交付金事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21,755	410,628
12. その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5,400
合計	-	-	50	-	205	537	233	1,248	-	-	22,664	17,723,295
地域別内訳												
沖繩	-	3	50	-	35	537	130	1,248	-	-	9,170	5,381,721
宮古	-	-	-	-	146	-	45	-	-	-	9,001	8,147,410
八重山	-	-	-	-	24	-	58	-	-	-	4,493	3,941,339

※農道は、集落道を含まない。
 ※かんがい施設は、水源を含まない。（水源は、その他に記載）
 ※「-」は、該当がなかったことを示す。
 ※「●」は、計画作成中である。
 ※ラウンドのため計と内訳が一致しないことがある。

8 栽培技術の改善及び農業経営の合理化に関する計画

(1) 農業経営の合理化に関する計画

- ア 農業経営の複合化推進
さとうきび農家の経営安定を図る観点から、野菜・葉たばこ・かんしょ・畜産等、他の作目との複合化を推進する。
- イ 経営体・担い手の育成
生産量が減少する中で、安定的な生産量の確保及び増産を図るとともに、効率的かつ安定的な農業経営体の育成が必要である。そのため、担い手への農地の利用集積や農業経営の法人化、生産組織や受託組織等の育成を促進する。

ウ 事業の実施計画

- ① さとうきび産業の安定と地域農業の活力を維持していくため、さとうきび関係機関の連携の下で、効率的、安定的な農業経営を行い得る担い手を中心とした生産出荷体制を構築するため、共同利用機械及び共同利用施設の整備等を実施する。

地域	実施予定地区数	事業量
沖縄県	20地区	ハーベスタ等(10地区)、トラクタ等栽培管理機(10地区)

② 主なさとうきび生産振興対策事業

事業名	事業内容
種苗対策事業	生産の安定と品質向上及び新品種の普及推進を図るため、優良種苗の安定的な生産配布を行う。
さとうきび増産基金事業(セーフティネット基金)	さとうきびの生産回復・増産、生産性の向上や甘しや糖企業のコスト低減等を図る。
病虫害総合防除対策事業	病虫害異常発生に対し、緊急防除対策を図る。
さとうきび生産総合対策事業	さとうきびの生産振興並びに農業経営の改善と農業所得の安定向上を推進するために共同利用機械及び共同利用施設等の整備を実施する。

③地域の実態に即した技術の啓発・普及及び農家の取り組み意識の啓発のため、行政、農業団体、試験研究機関、農業改良普及センター等で構成する協議会等の開催・実証ほの設置等の開催・実証ほの設置等を行う。

事業量	
地域	実施予定地区数
沖縄 宮古 八重山	10地区 3地区 5地区
さとうきび生産振興協議会等の開催、生育調査の実施、実証展示ほの設置	

④その他支援事業等

事業名	事業内容
さとうきび機械化一貫体系モデル事業	持続的なさとうきび生産に向け、地域の機械収穫体制の強化等を目的とした、収穫機械の機能向上及びオペレータの育成の支援を行う。
分蜜糖振興対策支援事業	持続的なさとうきび生産には、生産振興と併せ、製糖工場の安定稼働が欠かせないため、分蜜糖製造事業者に対し、必要な支援を行う。
含蜜糖振興対策事業	含蜜糖地域における生産者及び製糖事業者の経営安定を図り、これら離島地域の農業・社会経済の維持・発展に寄与する。
沖縄黒糖販路拡大推進事業	さとうきび生産性向上に伴う黒糖の増産傾向に対応し、持続的なさとうきび生産を実現していくため、黒糖の販路拡大を図る。

(2) 栽培技術の普及・指導

さとうきびの生産性及び品質の向上に向けて、新技術の開発と課題解決、その普及指導を一層強化するとともに、単収向上のための条件整備と技術対策を強力に推進する必要がある。
このため、重点的に次の事項の指導強化を図る。

ア 生産基盤整備の促進
ほ場整備等の生産基盤の整備事業と併せて、プラソイラ等を用いた硬盤層の破砕や石礫除去等土壌物理性の改善や暗渠等の整備

による排水性の改善、土壌理化学性の改善に対する普及指導を推進する。

農地流動化を促進してほ場の利用集積を図り、機械化一貫作業体系を促進する。

防災農業を推進するため、防風・防潮林整備の普及・啓発を図り、かんがい施設の利用による干ばつ害の軽減と単収向上のための適期かん水を推進する。

イ 土づくりと地力の維持増進

土壌診断に基づく土壌改良や施肥技術の改善、畜産との連携等による有機質肥料や緑肥の耕地への還元を推進するとともに、輪作の推進等により地力の維持増進を図る。

ウ 単位収量の増大と品質の向上

栽培指針に基づいた適期栽培管理の指導を強化するとともに、地域に適應する優良品種の増殖普及を図る。さらに、早期収穫や作型に応じた品種構成の適正化を図りながら、株出萌芽性に優れ、機械収穫に適した品種の普及を促進する。

施肥については、土壌診断に基づいて地力に応じた低コストで効果の高い施肥方法を指導する。

また、深耕作業の実施および苗の予措等による発芽数の確保、補植による欠株対策や早期株出管理等についても指導を強化する。さらに研究機関との連携により、品種に応じた夏植の適期植付の啓発指導や、ビレットプラント等機械植付による省力化技術の開発普及を図る。

エ 病害虫の防除

病害虫による被害軽減を図るため、病害虫の発生予察情報を的確かつ迅速に農家に提供し、農薬の適正な使用と効果的な防除を推進するとともに、共同防除等、総合的な防除対策を指導する。

オ 機械化一貫作業体系の推進による農業法人等の担い手育成

さとうきび経営安定対策に即した担い手の育成を図るため、農業法人や農作業受託組織等の育成を強化するとともに、地域の実態に即した収穫機械や株出管理機等の導入を促進し、機械化の困難な地域等においては無脱葉原料搬入等により軽労化を図り、栽培面積の規模拡大を促進する。

(3) 農業改良普及指導方針

本県のさとうきび栽培は、長期にわたる有機物の供給不足等による地力の減退、株出管理作業等の栽培管理の粗放化等により、気象災害等の自然的要因に左右されやすく、単位収量が低迷している。

このため、さとうきびの生産性及び品質向上を図る観点から、各地域に現地実証展示ほ等を設置し、県、市町村、生産者、製糖企業、及び関係機関・団体が一体となった指導を推進するとともに、特に単収向上のための栽培技術指導を強化する。

さとうきび作においては、生産農家の高齢化が進んでおり、担い手の育成が急務である。これまで行ってきた借地型大規模経営さとうきび生産法人の育成支援を継続しながら、単収向上による経営の安定化を図る。また、農業機械士の育成により、農作業受託体制の強化を図りつつ、オペレータの技能向上を推進し、さとうきび収穫機械や管理機械の利用技術を高め、収穫損失の軽減、株出管理の徹底及び機械化の促進を図る等、生産性の向上を目指す。同時にさとうきび経営安定対策に即した担い手育成のため、共同利用組織等の受託組織育成を図り、生産農家が安心して生産できる体制を構築する。

併せて、さとうきび栽培においても、施肥や農薬の適正使用、安全な農作業等を実施する上で、GAPを意識した取組により持続可能なさとうきび栽培を推進する。

普及指導事項	主 な 内 容	具 体 的 な 取 組
土づくりと地力の維持増進	<ol style="list-style-type: none"> 1 土壌診断推進 2 緑肥作物の利用促進 3 堆肥等の利用促進 4 家畜糞尿等未利用資源の活用促進 5 環境にやさしい土づくりの推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 土壌分析に基づく適正施肥 1 心土破砕による排水性改善 2、3 有機物投入の推進 3 堆肥の全面散布から条撒きによる低コスト化、ペレット堆肥の利用による労力低減 4 家畜糞尿の利用による化成肥料の低減 5 緩効性肥料等の普及による施肥の効率化 5 グリーンベルト設置等による耕土流出対策

普及指導事項	主 な 内 容	具 体 的 な 取 組
単位収量の増大 と品質の向上	<ol style="list-style-type: none"> 1 さとうきび品種構成の適正化 2 発芽率の向上と欠株補植による茎数確保の指導 3 適期肥培管理の啓発活動 4 早期株出管理の推進 5 効率的な機械植付技術の指導 6 機械収穫適応栽培技術の指導 7 効率的なかん水技術の指導 	<ol style="list-style-type: none"> 1 品種比較展示ほの設置による現地検討 1 栽培講習会による奨励品種の普及啓発 2 苗ほの設置、補植苗の確保、補植指導 2 補植用苗の普及推進 3 適期施肥・培土・除草、適期かん水の推進 3 薬剤の普及拡大、農薬の適正使用 4 株出複合管理機の普及推進 4 早期株出管理の啓発 5 機械植付の実証展示 6 機械収穫に適する品種及び植付方法の検討 7 展示圃・講習会等による積極的かん水の普及啓発

普及指導事項	主 な 内 容	具 体 的 な 取 組
<p>経営体・担い手の育成</p>	<p>I さとうきび生産法人の育成支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人化志向農家の育成指導 2 農業法人課題解決支援 3 機械化体系による省力化・低コスト栽培の推進 <p>II さとうきび個別経営体の支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経営管理能力向上の支援 2 栽培技術の指導の実施 <p>III 地域におけるリーダーの育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 後継者育成及び組織の活性化の支援 2 さとうきび作担い手としての農業機械士育成支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 農業機械士志向農家の掘り起こし (2) 農業機械士協議会各支部の組織育成支援 <ol style="list-style-type: none"> ① 農業機械士技能向上研修の実施 ② 農作業安全保守点検の実施 <p>IV 関係機関と連携した生産組織及び受託組織の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 さとうきび生産の中核を担う生産組織の育成 2 基幹作業の受託組織の育成 3 地域の実情に即した共同利用組織の育成 	<p>市町村・関係機関等地域による支援を促進 農地集積、受委託作業の実態調査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法人化に向けた経営計画作成指導 2 経営管理能力の向上支援 3 肥培管理、株出管理機械化体系講習会等の開催 <p>地区生産振興対策協議会等関係機関と連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経営分析・指導の実施 1 輪作等の推進による農業所得向上支援 1 農業保険加入の促進 2 適期作業によるコスト低減 2 新規就農者等への基本技術指導 2 単収向上による経営安定 <ol style="list-style-type: none"> 2 各農業改良普及課・普及センターで農業機械士協議会の事務局運営を支援 2 (2) オペレータ技能向上研修会開催 2 (2) 地域農作業安全推進活動の実施支援 <p>増産プロジェクト会議との連携 地域担い手育成総合支援協議会との連携</p>

普及指導事項	主 な 内 容	具 体 的 な 取 組
病害虫の防除・鳥獣害対策	<ol style="list-style-type: none"> 1 土壌害虫及び地上部害虫の薬剤による適期防除の指導 2 病害等発生防止対策の指導 3 農薬適正使用の指導 4 ハリガネムシ、イネヨトウ、アオドウガネ等の防除 5 適期防除講習会、巡回指導の実施 6 野そ・イノシシ等被害の軽減対策の指導 7 難防除害虫等の防除対策 8 難防除雑草の防除対策 	<ol style="list-style-type: none"> 1 農業研究センター、各地区さとうきび生産振興対策協議会等関係機関と連携・指導 1 除草推進による飛来性害虫の侵入抑制 2 除草推進による通気性改善、種苗消毒等予措の推進 3 GAPの推進 4 性フェロモン、誘殺灯利用による成虫誘殺防除の啓発 5 発生予察情報を活用した防除の推進 6 電気柵、ワイヤーメッシュ柵の設置等の支援 7 シロスジオサゾウムシ等防除対策の実施 8 カワバリバトウダイやつる性雑草等の防除技術の開発・普及
機械化一貫作業体系の推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の実情に即した機械化一貫作業体系の推進指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) オペレータ確保による農作業受託体制の強化 (2) 各種作業機オペレータの技術向上・平準化 (3) 収穫機利用による植付時の採苗・調苗省力化の推進 (4) 農作業受委託の推進指導 (5) 基幹作業等の機械化推進 (6) オペレータ不足に対応した機械化の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各地区増産プロジェクト会議や各地区農業機械士協議会等と連携した実演会等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 農業機械士養成研修会への誘導 (2) 作業機毎の技術向上研修の開催 (3) 技術導入や普及に向けた情報収集、条件整理 (4) 各種作業機械の実演会開催 (5) 耕起・整地作業機、植付機、ハーベスタ等収穫機、株出管理機、防除機の利用促進 (6) スマート農業等の導入に向けた検討
農業経営の複合化	<ol style="list-style-type: none"> 1 複合経営、輪作体系の奨励 2 農地の流動化等による規模拡大支援 3 認定志向農業者育成支援 4 農業共済制度・収入保険制度の加入推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の複合経営事例の調査 2 中間管理事業の活用等による規模拡大の推進 3 簿記講座等の開催による経営管理能力の向上 4 制度の周知支援

(4) 試験研究計画

試験項目	試験の概要	試験実施場所
<p>I 育種</p> <p>1 さとうきびの育種試験</p> <p>(1) 遺伝資源の保存</p> <p>(2) 交配素材の養成</p> <p>(3) 人工交配</p> <p>(4) 初期世代選抜試験 (第1～3次選抜試験)</p> <p>(5) 中期世代選抜試験 (第4～5次選抜試験)</p> <p>(6) 生産力検定試験</p>	<p>県内各地域に向け、優良品種(①新植および株出しでの多収性、②不良環境への適応性および気象災害への抵抗性の強化、③機械化に適応した高生産性④低コスト性)を育成する。</p> <p>国内外から収集または導入したさとうきび属および近縁属の品種・系統を保存するとともに、沖縄の生態地域に適した優良な品種育成のための交配素材とする。</p> <p>優良な後代獲得のため、遺伝資源や育成系統から、交配父母本を選定する。</p> <p>優良な父母本を効率的に組み合わせさせて交配し、交雑種子を多量に獲得する。組み合わせ検定によって効率的に優良個体が作出できる組み合わせの選定を進めるとともに、出穂誘起と同調により、これまで利用がはかどっていないかった素材の活用に努める。</p> <p>人工交配で得た種子・実生から、沖縄の生態地域に適した系統を観察(形態、生態)および品質(ブリックス)測定により選抜する。</p> <p>初期選抜から選抜された系統を供試し、観察、形態、生態、障害抵抗性、機械化適応性、低コスト性、品質、収量性等により選抜を進める。</p> <p>中期世代選抜試験から選抜された系統について、収量性・品質等を中心に調査して生産力を評価し、有望系統を選抜する。</p>	<p>農業研究センター—作物班</p> <p>農業研究センター—作物班</p> <p>農業研究センター—作物班</p> <p>農業研究センター—作物班</p> <p>農業研究センター—作物班、宮古島支所</p> <p>農業研究センター—作物班、名護支所、宮古島支所、石垣支所</p> <p>農業研究センター—作物班</p>

試験項目	試験の概要	試験実施場所
II 品種選定 1 さとうきび系統現地選抜 (地域選抜) 試験	<p>各生態地域に向け、高糖性、障害抵抗性、機械適応性および多収性で糖収量の高い有望系統を選抜する。</p>	<p>農業研究センター一名護支所、宮古島支所、石垣支所</p>
2 さとうきび系統適応性 検定試験	<p>沖縄県農研センター育成(春植え約10系統、株出し約10系統)、九州農研育成(春植え約10系統、株出し約10系統)について、名護、宮古島、石垣の各支所で地域適応性を検討する。</p>	<p>農業研究センター作物班、名護支所、宮古島支所、石垣支所</p>
3 さとうきび奨励品種決定 調査	<p>有望系統の奨励品種の決定に向け、春植え、夏植え、株出しの3作型で有望系統の収量性、品質および障害抵抗性等の評価を進める。</p>	<p>農業研究センター作物班、名護支所、宮古島支所、石垣支所</p>
III 栽培 1 さとうきび気象感応試験	<p>春植え、夏植え、株出しの3作型について、生育調査を5月から、蔗汁調査を10月から毎月1回、2月まで調査する。また、気象概況として各月の気象データを取りまとめるとともに、台風や干ばつ等の気象災害発生時には、適宜、実施要綱に沿った被害調査を実施する。対象区を設置し上記と同様の調査を実施する。これらの試験結果を現場でのさとうきびの栽培改善に活用できるような情報運営システムの構築を図る。</p>	<p>農業研究センター作物班、宮古島支所、石垣支所</p>
2 畑作関係除草剤・生育調節剤委託試験	<p>日本植物調整剤研究協会からの依頼を受け、さとうきび作で適用拡大等を目指す畑作除草剤についての適用性等の試験を実施する。</p>	<p>農業研究センター作物班、名護支所、宮古島支所、石垣支所</p>

試 験 項 目	試 験 の 概 要	試 験 実 施 場 所
<p>3 地域を支えるサトウキビ大規模栽培体系構築事業</p> <p>(1) 大規模栽培作業に対応可能な省力的栽培体系の構築</p> <p>(2) 大規模栽培を支えるスマート農業技術の導入</p> <p>4 株出し収量の確保を目的とした雑草防除方法の構築</p> <p>(1) カワリバトウダイ防除技術の開発</p> <p>5 黒糖製造における仕上げ条件と黒糖品質の関係解明(沖縄黒糖安定供給支援業)</p>	<p>大規模栽培作業に対応可能な省力的栽培体系の構築のため、省路可能な管理作業の抽出等により省力化を図るとともに、持続的な単収向上のための栽培管理技術を開発する。</p> <p>新たな担い手となる大規模経営体の持続的なサトウキビ生産体制を構築するため、省力化および増収技術を開発する。とともに、スマート農業技術の導入に向け、自動操舵トラクタ、ドローン等を活用した効率化技術を検証する。</p> <p>沖縄県の本島地域と宮古島地域において、カワリバトウダイのサトウキビ圃場への侵入が確認され、生育域が拡大しつつある。そこでカワリバトウダイ防除技術の開発を目的とし、カワリバトウダイの生育特性を解明および耕種的防除の有効性を検証する。また、効果の高い除草剤の選定を行う。</p> <p>保管中の黒糖に発生する問題(箱上がりや泣き)には、原料蔗汁の品質に加えて、特に製造工程最後の仕上げ～攪拌・冷却工程の諸条件が密接に関係していると考えられる。そこで、保管中の黒糖に生じる問題について、実態調査を行い、原因を検討する。次いで黒糖製造における仕上げ工程の条件と黒糖品質の関係を明らかにする。</p>	<p>農業研究センター 作物班、名護支所、宮古島支所、石垣支所</p> <p>農業研究センター 作物班、名護支所、宮古島支所、石垣支所</p> <p>農業研究センター 作物班、宮古島支所</p> <p>農業研究センター 農業システム開発班、石垣支所</p>

試験項目	試験の概要	試験実施場所
IV 土壌肥料		
1 サトウキビ春植え株出し体系における緩効性肥料や土壌改良資材の検討	島尻マージのサトウキビ春植え株出し栽培において、株出し栽培用を試作した緩効性肥料による施肥回数削減効果を検討する。	農業研究センター—土壌環境班
2 株出し栽培における赤土流出抑制技術の検討(赤土流出防止営農対策促進事業)	国頭マージほ場の株出し栽培中において、営農で可能な赤土流出量を調査し、栽培期間中の土壌流出量を調査し、土壌流出抑制策を調査する。また、栽培期間中の土壌流出量を調査し、土壌流出抑制策を調査する。また、栽培期間中の土壌流出量を調査し、土壌流出抑制策を調査する。	農業研究センター—土壌環境班
V 病害虫		
1 カンシヤシンクイハマキ交信かく乱剤の農薬登録に向けた試験	カンシヤシンクイハマキの交信かく乱試験を実施し、農薬登録に係る基礎資料とする。	農業研究センター—病害虫管理技術開発班
2 さとうきび増産体制フォーアツプ事業 ①シロアスゾウムシの誘引物質の探索	さとうきびを用いたトラップから揮発する物質を同定し、成虫の誘引物質の同定を試みる。さとうきびの誘引物質の同定を試みる。	農業研究センター—病害虫管理技術開発班

試験項目	試験の概要	試験実施場所
3 AIを活用した作物障害画像診断に向けた体制整備事業	黒穂病、カンシヤ、カシヤ、トウヤクシヤについて画像認識、カンシヤ、カシヤ、トウヤクシヤの発生状況をモニタリングし、AI診断別アクトウの開	農業研究センター病虫管理技術開発班
4 地域を支援するスマート農業導入	マルチチャコペクトラムドムシの発生状況をモニタリングし、AI診断別アクトウの開	農業研究センター病虫管理技術開発班
VI 農業機械		
1 さとうきび機械化一貫体系モデル事業 (1) スマート農業技術体系モデル検証事業 ① スマート農業技術体系に係る性能評価	「沖縄県特定高性能農業機械導入計画」に、スマート農業機械（自動操舵トラクタ）の性能を反映させるために、作業時間、作業速度、燃料消費量等を計測し、分析結果を取りまとめる。	農業研究センター農業システム開発班
VII 農業経営		
1 沖縄本島部における持続的サトウキビ収穫作業受託体制構築のための条件説明	収穫作業受託者の収穫実績を基に運営実態（収支・機械の償却状況等）と持続的なサトウキビ収穫体制を維持・構築するために求められる諸条件を明らかにする。	農業研究センター農業システム開発班

9 集荷及び販売に関する計画

(1) 地域別さとうきび販売数量

地域名	收穫面積 ha	ha当たり 収量 t	生産量 t	分みつ糖原料		含みつ糖原料	
				販売先工場名	販売数量 t	販売先工場名	販売数量 t
北部本島	865	45	38,700	ゆがふ製糖	38,700	J A おきなわ伊江支店	5,800
北部離島	631	54	33,900	J A おきなわ伊是名支店	22,900	J A おきなわ伊平屋支店	5,100
北部小計	1,496	48	72,500				
中部小計	493	54	26,600	ゆがふ製糖	26,600		
南部本島	1,304	62	81,300	ゆがふ製糖	81,300		
南部離島	2,793	61	171,200	久米島製糖KK 大東糖業KK 北大東製糖KK	64,200 76,700 28,200	J A おきなわ栗国支店	2,000
南部小計	4,097	62	252,400				
沖繩計	6,086	58	351,600		338,700		12,900
宮古本島	4,603	59	269,700	沖繩製糖KK 宮古製糖KK(城辺)	146,500 123,200		
宮古離島	1,478	62	92,200	宮古製糖KK(伊良部)	67,200	宮古製糖KK(多良間)	25,000
宮古小計	6,081	60	361,900		336,900		25,000
八重山本島	1,445	64	91,800	石垣島製糖KK	91,800	J A おきなわ小浜製糖工場 西表糖業KK 波照間製糖KK	4,600 10,600 11,500
八重山離島	563	56	31,300			J A おきなわ与那国支店	4,500
八重山小計	2,008	61	123,100		91,800		31,300
合計	14,175	59	836,600		767,400		69,200

※生産量については、100トン未満は四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。
 ※收穫面積については、1ヘクタール未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。
 ※販売数量は、各工場の調達予定区域からの集計値である。

(2) 製造事業者別・工場別さとうきび集荷計画数量

ア 分みつ糖

会社又は工場名	収穫面積	生産量	集荷計画数量	集荷期間
	h a	t	t	
ゆがふ製糖 (北地区)	1, 266	60, 100	60, 100	R6. 12月～R7. 3月
ゆがふ製糖 (南部地区)	1, 396	86, 500	86, 500	"
沖繩本島	2, 663	146, 600	146, 600	
J Aおきなわ伊是名支店	400	22, 900	22, 900	R6. 12月～R7. 3月
久米島製糖KK	1, 050	64, 200	64, 200	R7. 1月～R7. 4月
大東糖業KK	1, 300	76, 700	76, 700	R6. 12月～R7. 3月
北大東製糖KK	400	28, 200	28, 200	"
沖繩離島	3, 150	192, 100	192, 100	
沖繩計	5, 813	338, 700	338, 700	
沖繩製糖KK	2, 496	146, 500	146, 500	R6. 12月～R7. 3月
宮古製糖KK城辺工場	2, 107	123, 200	123, 200	"
宮古本島	4, 603	269, 700	269, 700	
宮古製糖KK伊良部工場	1, 158	67, 100	67, 100	R6. 12月～R7. 4月
宮古離島	1, 158	67, 100	67, 100	
宮古計	5, 761	336, 900	336, 900	
石垣島製糖KK	1, 445	91, 800	91, 800	R6. 12月～R7. 3月
八重山計	1, 445	91, 800	91, 800	
分みつ計	13, 019	767, 400	767, 400	

※生産量については、100トン未満は四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。
 ※収穫面積については、1ヘクタール未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。
 ※集荷計画数量は、各工場の調達予定区域からの集計値である。

イ 含みつ糖

会社又は工場名	収穫面積	生産量	集荷計画数量	集荷期間
J A おきなわ伊江支店	h a 90	t 5,800	t 5,800	R6.12月～R7.3月
J A おきなわ伊平屋支店	141	5,100	5,100	"
J A おきなわ栗国支店	43	2,000	2,000	"
沖縄計	273	12,900	12,900	
宮古製糖KK多良間工場	320	25,000	25,000	R6.12月～R7.3月
宮古計	320	25,000	25,000	
J A おきなわ小浜製糖工場	76	4,600	4,600	R6.12月～R7.3月
西表糖業KK	165	10,600	10,600	R6.12月～R7.4月
波照間製糖KK	218	11,500	11,500	R6.12月～R7.3月
J A おきなわ与那国支店	104	4,500	4,500	"
八重山計	563	31,300	31,300	
含みつ計	1,156	69,200	69,200	
分 合 計	14,175	836,600	836,600	

※生産量については、100トン未満は四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。
 ※収穫面積については、1ヘクタール未満を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。
 ※集荷計画数量は、各工場の調達予定区域からの集計値である。